

神経性無食欲症が原因で心停止を きたした中学生の症例

こう の よし え¹⁾ かげ やま そういちろう²⁾ ふじ はら ゆう こ³⁾
河 野 美 江¹⁾ 景 山 聡一郎²⁾ 藤 原 悠 子³⁾
たつ み はる き⁴⁾ と だ とし こ⁴⁾
辰 巳 春 環⁴⁾ 戸 田 稔 子⁴⁾

キーワード：神経性無食欲症，心停止，島根県学校・地域保健連携推進事業

要 旨

近年，神経性無食欲症の発生率が急増している。小・中学生の発症も多く報告され，その中で早期発見のため学校が大きな役割を果たしている。今回，神経性無食欲症が原因で心停止をきたした中学生の症例を経験したので報告する。患者は13歳，女性で「摂食障害のため3ヶ月で体重が48 kg から27 kg に減少し，視力低下を伴っている。」と中学校の養護教諭より紹介があった。来院時，高度脱水，高血糖を認め，ICU へ緊急入院となった。しかし翌朝，心肺停止となり約1分後に蘇生した。第54病日に全身状態安定し，一般病棟へ転棟，第176病日に復学・リハビリ目的で転院した。本症例は島根県学校・地域保健連携推進事業のアドバイザー制度を通じて，養護教諭から相談があった。アドバイザー制度は，学校と医療をつなぐ役割として大変重要な役割を果たしていると考えられる。

はじめに

近年，「やせ」を美化する社会的背景のもとに神経性無食欲症（Anorexia Nervosa）の発生率が急増している。小・中学生の発症も多く報告され，その中で早期発見のため学校が大きな役割を果たしている。またしばしば生命に危険が及ぶため，学校・保護者・医療機関の緊密な連携が重要である。

今回，神経性無食欲症が原因で心停止をきたした中学生の症例を経験したので報告する。なお，個人のプライバシーを守るために，家族歴や生活歴は原則として省き，本論の趣旨に影響しない部分については変更を加えている。

症 例

患者：13歳，女性。
主訴：「摂食障害のため3ヶ月で体重が48 kg から27 kg に減少し，視力低下を伴っている。」と中学校の養護教諭より紹介があった。
既往歴：小学校時より不登校。中学校では相談室

Yoshie KONO et al.

1) 島根大学保健管理センター 2) 名古屋徳州会病院

3) 出雲市民病院 4) 松江生協病院

連絡先：〒690-8504 松江江西川津町1060